

交換留学(派遣) 帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。
① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。
② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。
③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。

本報告書は帰国後、1ヶ月以内に写真データと一緒にメールで提出してください。



あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ウィーン経済大学
留学先での所属学部・研究科:	経営学部
留学先での在籍身分:	交換留学生
留学期間:	2025年9月～2026年6月
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	3年
帰国日:	6月24日
本報告書記入日:	2026/9/9

1. 留学先大学について		
1-1	受入許可書 (Acceptance Letter) を貰えた日	5月2日
	参加必須のオリエンテーション日	9月8,9日
	学期:	① 10月1日～ 1月16日
		② 3月2日～ 5月27日
		③ 月 日～ 月 日
		④ 月 日～ 月 日
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	1現地企業との共同授業など、実践的な授業が多い 2ほとんど全ての授業でディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークがある 3マーケティングの分野が人気と聞いたことがある(神戸大学と比べると、ファイナンス関連の授業も幅広くある)
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。	
	語学面でのサポート:	タンデムプログラム
	勉強面でのサポート:	利用したことはないが、オフィスアワーがある。
	精神面でのサポート:	定期的にメンタルケア関連のメールが届き、面談?の案内があった
	住居・生活面でのサポート:	OEADという管理会社の紹介
	課外活動のサポート:	EBNという学生団体が留学生向けにイベントを頻繁に開催している
1-4	近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。	クリックで別シートへ

2. 住居について		
2-1	住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気を付けること等)	鍵を部屋の中に忘れて外出すると締め出されるので気を付けたほうが良い。何度か忘れて外出たときがあり、ルームメイトがいるときは開けてもらっていたが、長期休暇中に締め出されたときはどうしようもなかったのでlocksmithを呼んで開けてもらった(€180=約33000円)。

3. 生活について		
3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	寮のWifiが使える。料金は家賃に含まれている、
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	wifi有
3-2	医療について 留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていない。発熱は何度かあったが、日本から解熱剤や風邪薬を持参していたのでそれらを服用した。
3-3	銀行口座等について 留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	Erste銀行の口座を開設した。Visaの申請時に銀行残高の証明が必要なので開設は到着後1週間で済ませた。

4. 経費について(奨学金、留学費用)		
4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	Jasso
	支給額(円/月):	11万円
	その他(渡航費等の支給):	1万円
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	26万円
	住居費:	(月額) 10.7万円 × (留学月数) 10ヵ月 = 107万円
	食費:	(月額) 7万円 × (留学月数) 10ヵ月 = 70万円
	保険料:	10万円
	旅行:	50万円
	その他:	30万円
	合計(留学期間全体の費用):	280万円
5. 異文化体験について		
5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	・6か月間の兵役 or 9か月間の公共施設での勤務等、社会貢献活動(友人は美術館に勤務していた)のどちらかを選択できる。友人曰く、兵役を選択した方がレジュメの見栄えがよくなるそう ・4月以降、20時ぐらいでもまだ日が落ちないこと。夏場は21時ぐらいまで明るい ・舞踏会の文化。21時ぐらいからスタートし、一番最後の人は朝の3時ぐらいまで踊っていた。 ・オーストリアのレストランの店員はgrumpy(むすっとしている)と言われており、実際にお店でもニコニコしている店員さんをあまり見かけない。ただ、笑わないだけでフレンドリーな店員さんも多い ・誕生日パーティーを自分で主催すること。教会の下バーや、美術館前の広場、自宅など場所は様々 ・イースター。カトリックとプロテスタントの両方のイースターイベントに参加した。友人の実家に招待してもらったときは、正午から22時までワインを飲み、ラム肉を食べ、と非常に楽しかった ・ウィーンがコンパクトな街ということもあり、小学校や中学校からのコミュニティに属している人が多い。 ・ウィーンも、いわゆる「海外と日本の文化の違い」の例に漏れず、クリスマスは家族との団らんを楽しみ、ニューイヤーは恋人と過ごすという文化がある。私のルームメイト(ドイツ人とスロベニア人)もクリスマスは実家に帰っていた ・時間帯関係なく、お酒を飲んでいる人を街中で見かける。仕事の昼休憩に、酔わない程度にビールを飲む人たちもいるそう ・職種によるが、基本的には9時-17時きっかりしか働かない人が多いらしい。16:59分にオフィスが火事になっても、消化するのは次の日の9時からという表現があるぐらい ・目を見て乾杯する
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	日本関連のイベント(日本映画祭、日本舞踏会、日本酒フェスティバル等)や、タンデムを通じて知り合った友人が誘ってくれたパーティーやイベントで現地の人とのつながりができた。日本関連のイベントでは、日本文化が好きなオーストリア人やウィーンに長年住んでいる日本人との交流があり、留学期間中を通して複数回食事やパーティーに参加した。タンデムを通じた交流については、数えきれないほどイベントやパーティーに招待してもらった。
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	ウィーン日本映画祭・日本酒イベント・日本舞踏会のボランティアをした。映画祭のボランティアをしたことで、ウィーンの日本大使公邸でのイベントにも招待していただいた。
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	基本的には非常に安全な街だと思う。U3という地下鉄の路線の終着駅が寮の最寄りだったが、1度も危険を感じた場面は無かった。ただ、夜中は避けたほうが良いと呼ばれるエリアも存在し、実際私の友人もその近辺を歩いているときにホームレスの男性に追っかけられたことがあると言っていた。人種差別の観点からも、特に深刻な差別をされたと感じた場面はなく、非常に寛容な街だと思う。
6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	28年卒として、2月ごろから自己分析・ES作成・GD対策などを始めた

7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	オーストリア留学関連のnote
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	ダイソーの電子レンジ調理器(炊飯器):お米はスーパーで販売されている 防寒具:非常に高価なため(コートやマフラー)
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	語学に関しては、単純にスピーキングやリスニングの能力が向上しただけでなく、コミュニケーションのツールとしての英語という意味で、英語で話しかけ、一から人間関係を構築する力が身についた
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:(90) 点 → 帰国後:() 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	体調不良の時に部屋から閉め出されたこと。ドイツ、ウィーンは鍵の構造上、どの建物も実質オートロックなので、寮の部屋を出るときに鍵を忘れると締め出されることになる。10か月で合計3回締め出されたが、うち2回はルームメイトがいたので開けてもらえた。ただ、3月に締め出されたときは、丁度ルームメイト全員が引っ越したタイミングで誰もおらず、Key smithを呼ぶしかなかった。(約35000円)
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	適切でした。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	強く勧める。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか	5
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	5
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	5
	・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか	5
	・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか	4
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	5
	・留学全体の総合的な評価	5

8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)

留学して良かったと感じたことを、2点に分けてまとめます。どちらも、過去の帰国報告書や留学関連のWebサイトなどでよく目にする内容かもしれませんが、それぞれについて、具体的なエピソードを交えながら紹介したいと思います。これから留学に行く方や、留学を目指している方にとって、実際の留学生生活を少しでも具体的にイメージしてもらえる内容になればと思います。

1点目は英語で一から人間関係を構築する経験ができたことです。非常に当たり前のことではありますが、実際に留学して初めて、その難しさ、その先にある楽しさを実感しました。

今でも鮮明に覚えているのは、ウィーン出身の友人に誘われて、その友人の、友人の誕生日パーティーに初めて参加したときのことです。教会の地下にあるバーで開催されたパーティーだったのですが、行ってみると日本人どころかアジア人は私だけで、他の参加者40人ぐらいは全員オーストリア人でした。もちろん、現地人が集まる場なので、会話の多くはドイツ語です。ただ、それ以上に難しかったのは、すでに出来上がっている人間関係の中に入っていくことでした。ウィーンはよく「小さな村のようなもの」と言われるのですが、街がコンパクトなこともあり、初対面の人同士でも共通の知人がいることが非常に多いです。さらに、小学校の頃から続く友人関係やコミュニティを持っている人も多く、会場では私以外のほとんどの人が、もともとの知り合いか、共通の知人を通じてつながっていました。周囲ではそうした関係を土台に自然と会話が盛り上がる中、私は誰も知らない状態から、自分で話しかけ、一つずつ関係をつくっていく必要がありました。当時の私は、ドイツ語で盛り上がっている会話の輪に、初対面のアジア人として、しかも英語で入っていく勇気を持てませんでした。最初の2時間ほどは何とかその場に馴染もうと努力したものの、次第に居心地の悪さに耐えられなくなり、最後は「用事ができた」と嘘をついて、一人で帰ることになりました。この経験が、自分のコミュニケーションの仕方を見つめなおすきっかけとなり、それ以降自分なりに工夫をするようになりました。もちろんすぐに上手いくようになったわけではありませんが、「どんな質問をすれば会話が盛り上がり、自分も楽しめるか?」「どんな事前知識があれば面白い質問ができるか?」「相手はどんなことを話したがっているか?」などを考え、2回、3回と回数を重ねる中で徐々に慣れていきました。

留学中は想像でもできないような出会いがあります。私の場合、友達に誘われてカラオケに行くとアフガニスタン出身のラッパーと同じ部屋でVaundyを歌うことになったり、タイ人3人とタイ料理屋に行ったり、ウクライナ人とサシ飲みしたりと、これらの例はごく一部ですが、本当に様々な経験ができました。現地で出会った友人とは今でも連絡を取り合っており、そのつながりは帰国後の今も続いています。英語で一から人間関係を築いていく経験を通じて得た自信や度胸は、今後さまざまな場面で必ず生きてくると感じています。

2点目は、興味や関心を広げる機会が非常に多かったことです。

授業について言えば、神戸大学経営学部で2026年度前期に開講されている科目が約40科目(KIBER科目を除く)であるのに対し、ウィーン経済大学では、同じ期間に約200科目が開講されています。経済学やプレゼンテーションスキルなどの授業も含まれているため単純な比較はできませんが、選択肢の多さは大きな特徴だと思います。分野も幅広く、欧州の経済大学らしく、サステナビリティやESGに関連する授業に加え、企業と連携した実践的な授業も充実しています。そのため履修の際も、「もともと興味があるから学ぶ」というだけでなく、「これまでに全く触れたことのない分野だけれど、授業があるなら勉強してみよう」といった選択ができます。私自身、特に印象に残っているのが、ウィーンに本社を置き、暗号資産プラットフォーム事業を展開するBitpandaとの共同授業です。同企業の米国進出戦略を考えるという2か月間のプロジェクトだったのですが、暗号資産という全く知識が無い分野について、その事業に携わる社員の方に対して提案をし、Q&Aにも対応できるようになるために、YouTubeをみたり、Cryptoの取引をしている友人に話を聞いたりなど、必然的にインプットの量が増えていきました。そうした過程で、「日本は暗号資産に対してどのような方針を取っているのだろう」「ステーブルコインが普及すると、社会はどのように変わるのだろう」といった疑問も生まれ、それまでほとんど関心を持っていなかった分野にも意識が向くようになりました。このように、日本の大学ではあまり見かけないテーマの授業に触れ、それをきっかけに自分の興味や関心が思いがけない方向へ広がっていくことも、留学ならではの経験だったと思います。

また、学習面に限らず、人との出会いを通じて興味や関心が広がる機会も非常に多くありました。振り返ってみると、留学中には欧州、南北アメリカ、中東など、約30か国の学生や現地で暮らす人々と交流しました。挨拶を交わす程度だった人から、二人で飲みに行くほど親しくなった友人まで、関係の深さはさまざまです。ただ、そうした出会いを通じて共通して感じたのは、その国に関するニュースを目にしたときの受け止め方が変わったことです。ネットニュースや日本経済新聞などでその国に関する記事を見かけると、自然と現地で出会った友人の顔が浮かび、それまでよりも身近な出来事として関心を持ち、詳しく知りたいと思うようになりました。こうして関心の範囲が広がることで、知識や教養が身にただけでなく、実際にその国の人と話す際の話題も増えていきました。また、1点目の内容にも関連しますが、相手の国について自分なりに関心を持ち、知ろうとしている姿勢が伝わるだけでも、コミュニケーションの取りやすさは大きく変わります。このように、授業や人との出会いをきっかけに、それまで知らなかったことに興味を持ち、それを実生活に活かす経験ができることも留学して良かったと感じる理由の1つです。

最後に、これから留学に行く方に向けて、留学中のさまざまな出来事から何を感じ、何を学ぶかということについて、私自身が感じたことを書きたいと思います。

ある小説家のインタビュー記事で、「小説家として素晴らしい作品を生み出すには、体験の種類や数も大切だが、体験を体験たらしめる力も大切である」という趣旨の発言を目にしたことがあります。留学生活では、予想もしていなかった出会いや、人生観が大きく変わるような出来事に巡り合うことがあります。一方で、最初は新鮮だった海外での生活にも次第に慣れ、毎日が少し味気なく感じられる時期もあると思います。しかし、振り返ってみると、友人と食事をしたり、バーにお酒を飲みに行ったり、授業の後に何気ない会話をしたりといった日常の中にも、自分の興味や価値観を変える小さなきっかけがたくさん転がっていました。だからこそ、留学で何を学ばれるかは、どれだけ特別な経験をしたかだけでなく、目の前の出来事や人との出会いから何を感じ、何を考えるかによっても大きく変わるのだと思います。これから留学に行く方には、大きな出来事だけを「留学らしい経験」と考えず、日々の何気ない出来事にも意識を向けてみてほしいです。そうして一つひとつの経験を自分なりに受け止めていくことで、留学生活はより面白く、帰国した後にも残るものになるのではないかと思います。

9. 留学経験の共有について		
国 学を 通じ て感	あなたの報告書の一部を引用して、本学の印刷物やウェブサイトに掲載することに同意しますか？	はい
9-2	あなたの写真を本学の印刷物やホームページに掲載することに同意しますか？	はい
9-3	学部のウェブサイトに報告書を記載します。留学を検討している経営学部生があなたに連絡を取る事に同意しますか？	はい

ご協力ありがとうございました。本報告書は大変有益な資料になります。

1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	授業で の使用 言語	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等の成績評価についてアドバイ スも含めて教えてください
1	International Corporate Governance	Israt Jahan Oeeshi / Radlhakrishna n Midhum Krishna	1	6	英語	40	授業の前半は講義形式で、後半はインタラク ティブな形式。前半でコーポレートガバナンス に関する岸概念や理論、実際の事例を取り上 げる。後半ではそれらの知識を応用し、与えら れたケーススタディーについてグループディ スカッション、プレゼンテーションを行う。授業 内ディスカッションへの参加 (Participation in class discussions): 10% 個人課題 (Individual scholarly assignment): 25% 中間クイズ (Interim quizzes): 25% ケーススタディに関するグループプレゼン テーション (Comprehensive group presentation): 40%
2	International Business: a project with Bitpanda	Jelena Graneros	不定期	6	英語	30	Bitpanda (欧州大手暗号資産取引所) の実 課題に取り組む実践型コンサルティングプロ ジェクト。少人数チームでコンプライアンス、金 融犯罪防止 (AML/CFT、制裁、組織犯罪リス ク)、規制対応等の実問題に取り組む。講師と 実務家の共同指導のもと、理論インプット・手 法セッション・ゲストレチャーを通じて分析を進 め、中間プレゼン(第3週相当)を経て、最終 回にBitpandaへコンサルティング成果を直 接プレゼン(プロフェッショナルなクライアント 向け発表をシミュレート)し、フィードバックを 受ける。 参加点 (Participation) : 20% 中間プレゼンテーション (Mid Term Presentation) : 30% 最終プレゼンテーション (Final Presentation) : 40% ピア評価 (Peer Rating) : 10%
3	Introduction to Economic Geography	Jurgen Essletzbichler	1	6	英語	80	各回の授業では、講義、動画視聴、文献に基 づくディスカッション、ケーススタディ分析、授 業内での データ分析・解釈などが行われる。事前に指 定文献を読んだうえで授業に参加し、授業中 にはオンラインクイズやグループ課題に取り 組む形式であった。評価は、授業内オンライ ンクイズ 4 回、ディスカッション・セッションに おけるグループ課題 4 回、授業参加、期末 試験によって行われる。配点は、オンラインク イズ 20 点、グループ課題 20 点、期末試験 60 点であり、授業参加は最大 8 点のボーナ ス点として加算される。合格には合計 60 点 以上が必要であり、さらに期末試験で 60 点 中 30 点以上を取得する必要がある。
4	Estimating cost of capital	Stefan Bogner	1	6	英語	17	授業序盤に前回までの授業内容に基づいた テスト、各グループがケーススタディについて 10分間のプレゼンテーションを行う。その後、 講義形式で資本コスト推定の手法について学 ぶ。ケーススタディ(企業分析を4つのプロジェ クトに分割): 4回 × 15点 = 60点 授業内テスト: 4回 × 10点 = 40点

5	Mergers & Acquisitions	Alejo Baltasar Rodriguez Cacio	intensive class	6	英語	30	国際M&Aの財務的・戦略的・組織的側面を扱う科目。企業価値評価、ディール構築、クロスボーダー取引のリスクと機会を分析するための分析ツールを習得する。先進国・新興国双方の事例を用い、理論と実務を橋渡しする。DCF・マルチプル等のバリュエーション手法を学び、新興国市場の実態に合わせて標準モデルを適応させる方法、規制・文化・経済リスクの分析、現金対株式取引やレバレッジといった代替的なディール構造・資金調達手法の評価を行う。指定された企業の実際のM&A案件についてのグループプレゼンテーション、最終筆記試験で締めくくられる。グループプロジェクト・プレゼンテーション(Group project & presentation):35% 授業参加・ディスカッションへの貢献(Class participation):15% 最終筆記試験(Final written exam):50%
6							
7							
8							
9							
10							

・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

理論だけでなく、ケーススタディを用いたプレゼンやディスカッションが必ずと言っていいほど存在するため、意図せずとも自然と頭に内容が残る。現地学生の取り組みについてはかなり授業によって差がある。ファイナンス関連の科目は比較的単位を取ることが難しかったため、全員が真面目に取り組んでいたが、その他の科目についてはディスカッションやグループワークに参加する気がない学生もいた。